■辨天小僧（前後十二卷）

帝キネマ浅草屋現代映畫

脚色者　小國比沙志氏
監督者　古海卓二氏
撮影者　唐澤弘光氏

――主要役劇――

辨天菊之助　市川百々之助氏
南郷力丸　明石緑郎氏
忠信利平　片岡紅三郎氏
日本駄衛門　東瓦之助氏
赤星十三郎　嵐璃若氏
篠田大學　阪東豐昇氏
娘お吉　二葉菊子氏
大丸屋幸兵衛　淺野節氏
娘お靜　山下澄子氏
顎如上人　市川瓢藏氏

略筋省略。

新解釋も好いが、ものに依つては古い型で置きたいものも數多くある。此「辨天小僧」などもその内の一つだと思ふ。名台詞と型の美を備える「辨天小僧」も、此映畫の樣な新解釋をされる「辨天小僧」そのものがつまらないものになつて了ふ。舞台で見られる幻想の愚の華は全く影さへもなく只殘るは不自然な盜賊の譚りだけになつて了つて居る。前半は兎に角後半の濱松屋邊は新解釋も有難味が薄くなる。舞台そのまゝを撮つた長十郎の「辨天小僧」が映畫劇ではなく其型の好さを見せた濱松屋と比較して如何も見乏りがするではないか、これは百々之助氏の演技云々を論ずるより劇そのものが新解釋を施すべきものでない事を證據立てて居るのではあるまいか。小國比沙志氏の脚色も山場を巧みに生かして百々之助の辨天小僧を織り出さんと努めて居るが遺憾ながら成功とも云ひ難い。古海卓二氏の監督は前半は凝つただけの事はあつたが後半は生まじ舞臺と似通つた場面があるだけ思切つた新らし味も、舞臺に於る濱松屋の味も出し得ずして妙な奇型見式のものを見せられて聊か憑入つた。殊に女裝した百々之助氏の後姿を長々と見せてげつそりさせたなどは不注意千萬である。市川百々之助氏の辨辨天小僧は稚兒時代が最も好いが女裝は少々當てられた。濱松屋の穴に於る男になつてからのたんかもさつぱり利き目がなかつた。五人男も頗る貧弱で見られず、其他の助演者では阪東豐昇氏の篠田大學が立派な敵役であつたのが目に殘つた。撮影は優れて居る。

――山本緑葉――

興行價値――百々之助氏映畫は今正に黄金時代である、何をしても受ける、此映畫も百々之助氏の女裝で大受けである。（十月十五日前篇十月廿九日後篇　大阪芦邊劇場封切）